

EIP 企画パネルセッション

「ブロックチェーンの可能性・未来・課題」

【テーマ】

ビットコインを支える技術として登場したブロックチェーンは、中央集権的な管理ノードを置くことなく、ネットワーク上に堅牢な台帳を作成する技術である。その利用範囲は、仮想通貨の信用を保証することにとどまらない。取引や権利関係に関する信頼性の高い記録台帳の実現、知的財産権の帰属管理、高度なトレーサビリティの実現による安全性の向上、医療情報の蓄積による治療や研究の高度化、公職選挙における公正かつ安全な電子投票の実現、履歴の確実な記録による安全な取引の実現など、さまざまな分野での利用が期待されている。

社会的に大きな便益をもたらす可能性が大きい反面、制度上の位置づけやブロックチェーン同士の相互運用性の実現が、今後の課題になる。

本セッションでは、ブロックチェーン技術に期待される利用分野と実現される効果について、広くその可能性を展望する。そして、低コストかつ特定の主体に依存せずに実現しうる情報のトレーサビリティが、社会や法制度にどのような波及効果を持ちうるのか、相互運用性を高めるためにはどのような技術的な対応や標準化が望ましいのか、現在行うべきことは何かといったことを、各パネルのバックグラウンドを踏まえて議論する。こうした議論を通じて、ブロックチェーン技術およびそれがもたらす近未来について示唆を得ることを目指す。

【パネリスト】

岸上順一（室蘭工業大学）、山崎重一郎（近畿大学）、金子格（東京工芸大学）、須川賢洋（新潟大学）、小向太郎（日本大学）

【議題】

- (1) ブロックチェーン技術の可能性と近未来像
- (2) 制度上の課題（記録の法的効力、情報の保護、安全性の確保等）
- (3) 望ましい発展のための技術及び運用上の課題
- (4) その他